

「大北地域における高校教育のあり方」についての

意見・提案書

令和3年(2021年)12月15日

大北地域における高等学校の将来を考える協議会

目 次

はじめに	1
1 大北地域の高校教育の現状と課題	
(1) 大北地域の特色	1
(2) 中学生卒業生数の状況	1
(3) 第1期長野県高等学校再編計画以降の動向	2
(4) 高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針 に記されている事項	3
(5) 地区内の高等学校の現状	
池田工業高校	4
大町岳陽高校	5
白馬高校	6
2 合同部会について	7
3 大北地域の高校教育のあり方について（意見・提案）	8
資料編	
大北地域における高等学校の将来を考える協議会 設置要綱	10
大北地域における高等学校の将来を考える協議会 委員名簿	11
大北地域における高等学校の将来を考える協議会 開催経緯	12
合同部会 報告 [まとめ]	13
旧 12 通学区別中学校卒業予定者数の予測（2017 年～2036 年）	14
令和 3 年度 旧 12 通学区別入学者流出入表（全日制）	15
「都市部存立校」と「中山間地存立校」について	16

はじめに

少子化の進行や首都圏への一極集中などが大きな課題といわれる中で、大北地域においても、地域の将来を担う子どもたちの減少が地域の存続という視点からも大きな問題となっています。それは、学校の存在が地域創生・地域存続のシンボルともいえる子どもたちが集う地域の重要な教育資源であるからです。少子化が進行する中で地域の学校の将来像がどうあるべきかについては、地域の将来のあり方を左右するたいへん重要な論点です。

そのような状況の中で、新たな高校のあり方について長野県教育委員会が平成 30年（2018年）に示した「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」（以下、「実施方針」という。）に基づいて「大北地域における高等学校の将来を考える協議会（以下、「協議会」という。）」を設置しました。協議会では、活力ある専門教育の学びの場を配置していくために広域的・多角的に検討する「安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会（以下、「合同部会」）」を、隣接する旧第11通学区高等学校教育懇話会とともに設置し、検討しました。

協議会では、長野県教育委員会から「大北地域の将来を見据えた高校の学びのあり方」について意見が求められています。この地域で学ぶすべての生徒が、自ら夢を見つけ、夢に挑戦する学びの実現に向けて、本協議会が重ねた審議の結果として意見・提案いたします。

1 大北地域の高校教育の現状と課題

(1) 大北地域の特色

県立高等学校の旧第12通学区である大北地域（大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村）は、人口6万人弱の農業・工業・観光業がバランスよく連携した、壮大な北アルプスを望むたいへん美しい地域です。

池田・松川地区には長野県有数の水田地帯が広がり、リンゴや桃などの果樹を中心とする農産物も特産物となっています。大町地域は黒部ダム、仁科三湖への入口として、また、立山方面への登山客の基点となっています。県内5つの国宝建造物の一つ「仁科神明宮」は歴史を刻む神秘的な佇まいで人々を魅了します。

白馬・小谷地区はダイナミックなスキー場が多く、日本だけでなく海外を含めて多くのスキーヤーを魅了しています。夏の訪問地としても魅力的で令和元年には年間約300万人（長野県観光部 令和元年観光地利用者統計調査結果より）が訪れました。民宿・ホテル・ペンションの数はおよそ1,000戸あり、産業の大きなウエイトを占めている地域です。

(2) 中学生卒業生数の状況

令和3年の区域内の中学校卒業生は448人でした。今後は年によって多少の増減がありますが漸減が続き、令和10年には400名を、令和18年には300名を割り込む見込みです。これは、高校改革の起点としている平成29年の半数以下の45.4%となっており、たいへん深刻な状況です。

中学校卒業生数の予測（旧第12通学区）

西暦年 元号年	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17	2036 R18
中学卒業 予定者数	564	560	533	479	448	440	459	435	423	412	436	382	368	410	358	333	325	303	303	256
前年度比 増減	—	-4	-27	-54	-31	-8	19	-24	-12	-11	24	-54	-14	42	-52	-25	-8	-22	0	-47
増減累積 (R3 起点)	—	—	—	—	—	-8	11	-13	-25	-36	-12	-66	-80	-38	-90	-115	-123	-145	-145	-192

※H29年に対するR18年の数は45.4%、R3年に対するR18年の数は57.1%

参考（旧第11通学区）

西暦年 元号年	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13	2032 R14	2033 R15	2034 R16	2035 R17	2036 R18
中学卒業 予定者数	4,226	4,139	4,007	3,854	3,911	3,911	3,895	3,875	3,656	3,664	3,611	3,523	3,493	3,545	3,405	3,398	3,220	3,093	3,018	2,735
前年度比 増減	—	-87	-132	-153	57	0	-16	-20	-219	8	-53	-88	-30	52	-140	-7	-178	-127	-75	-283
増減累積 (R3 起点)	—	—	—	—	—	0	-16	-36	-255	-247	-300	-388	-418	-366	-506	-513	-691	-818	-893	-1,176

※H29年に対するR18年の数は64.7%、R3年に対するR18年の数は69.9%

(3) 第1期長野県高等学校再編計画以降の動向

① 高校配置の状況

2016年（平成28年）に大町高校と大町北高校が再編統合し、大町岳陽高校が開校しました。

実施年度	再編統合等の状況	
2016年 (平成28年)	大町(普通科・理数科)	} 大町岳陽
	大町北(普通科)	

② 生徒の状況（巻末資料参照）

中学校卒業生数の予測

高校入学年	2017年	2025年	2030年	2035年
中学校卒業生数	564人	423人	410人	303人
2017年に対する比率	100%	75%	73%	54%

旧第12通学区の中学校卒業生の高校進学状況（2021年度 全日制）

内 訳	人 数	割 合
旧第12通学区の公立高校へ進学	215人	49%
上記以外の高校へ進学	220人	51%
・旧第11通学区の公立高校へ進学	131人	---
・他の県内の公立高校へ進学	7人	---
・県内私立高校へ進学	45人	---
・その他（県外含む）	37人	---

旧第 12 通学区の高校への入学状況（2021 年度 全日制）

内 訳	人 数	割 合
旧第 12 通学区の中学校から入学	215 人	67 %
上記以外の中学校から入学	105 人	33 %
・旧第 11 通学区の中学校から入学	94 人	---
・県内他地区の中学校から入学	2 人	---
・その他（県外含む）	9 人	---

(4) 高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針 に記されている事項

① 現況・課題（実施方針 57 頁）

- ・中学校卒業生数が 2030 年には 2017 年の 69%まで減少する見込みであり、県全体の減少率 75%と比較しても減少が著しい状況にある。
- ・隣接通学区との間では、この通学区の中学から旧第 11 通学区の公立高校へ 170 人程度が流出し、一方、旧第 11 通学区の中学からこの通学区の公立高校に 130 人程度が流入しており、流出入が多い状況にある。特に、池田工業高校は、入学者の約半数が旧第 11 通学区の中学校から入学している。逆に、普通科は、この地区から旧第 11 通学区の公立高校に 100 人程度が流出している。
- ・中信地区の私立高校を中心に県内私立高校へ 50 人程度が進学している。
- ・隣接通学区との間の流出入が多い状況が続いていることから、隣接通学区の高校のあり方や少子化の状況も視野に入れて、この地域の高校の将来像を検討する必要がある。

② 再編計画の方向（実施方針 58 頁）

- ・隣接通学区への進学希望にも応えつつ、地域の子どもを地域で育てる観点も大切にしながら、地域の中学生の期待に応える学びの場を整備していく必要がある。
- ・この地区の今後の急激な少子化の進行を考えると、学校規模の縮小化を見据えた地域全体の高校の将来像について検討を進め、地域の合意形成を図っていく必要がある。
- ・これまでに、学究科・国際観光科等の特色ある学びの場を整備しており、普通科とともにこれらの充実を図っていく必要がある。
- ・また、専門学科については、総合技術高校の設置等、活力ある専門教育の学びの場を配置していくために、旧第 11 通学区の専門高校の将来像の検討と併せて、広域的・多角的に検討していくことが考えられる。

(5) 地区内の高等学校の現状（コロナ禍により実施できなかったものを含む）

地域内の全日制課程は、池田工業高校（工業／3クラス募集）、大町岳陽高校（普通科3／学究科2クラス募集）、白馬高校（普通科1クラス／国際観光科1クラス募集）の3校があり、それぞれ特色のある意欲的な教育活動を実践しています。

定時制課程は、池田工業（普通科1クラス募集）となっています（募集学級数は令和3年度の数）。

なお、各校の状況は下記のとおりです。

池田工業高校

全日制 工業科（機械科 電気・情報システム科 建築科）くくり募集

入試年度	充足率	募集定員	入学者数	入学者数の5年間平均						
				松本市	塩尻市	安曇野市	東筑摩郡	大町市	北安曇郡	その他
H29	100%	120	120	17	1	40	3	18	21	0
H30	100%	120	120							
H31	79%	120	95							
R2	77%	120	92							
R3	60%	120	72							

定時制 普通科

入試年度	充足率	募集定員	入学者数	入学者数の5年間平均						
				松本市	塩尻市	安曇野市	東筑摩郡	大町市	北安曇郡	その他
H29	28%	40	11	0	0	1	0	3	4	0
H30	28%	40	11							
H31	28%	40	11							
R2	5%	40	2							
R3	23%	40	9							

■進路状況（令和2年度全日制卒業生 111名）

四年制大学 3.6%（4人）（国公立0%）、短期大学0.9%（1人）、専門学校等35%（専門学校26人＋技専13人）、就職59%（65人）その他1.8%（2人）

■池工版デュアルシステム

毎週地域の企業や施設に出向いて現場での研修を受け、技術・技能の習得や確かな職業観を育み、単位認定する仕組。昨年度で15年目となり延べ280名の生徒が研修を実施。昨年は各科の3年生26名が11の事業所で研修に参加し、実社会を体験しました。

■0時間目（朝学習）

朝のHR（ホームルーム）前の10分間、「基礎学力の向上」と「生活習慣と学習習慣の確立」を目的に毎日取り組んでいる。全職員が担当し、大きな成果をあげています。

■大学・地元専門学校との連携

平成26年度に「公立諏訪東京理科大学」と高大連携の協定を結びました。毎年3年生の「課題研究」で連携した研究を行っています。また、池田町の日本アルプス国際学院で1年生が連携授業を行っています。

■地域連携

- ・池工お助け隊…地域交流センターの建築模型製作、仁科神明宮木札の製作など
- ・生徒会活動…池工祭及び福祉バザーの実施。その他、駅舎・通学路の清掃作業など
- ・親子体験講座…小学生を対象とした「親子ものづくり体験講座」を開催

■資格取得

機械科	電気・情報システム科	建築科
<ul style="list-style-type: none"> ◆技能検定三級機械加工普通旋盤 ◆技能検定三級機械検査 ◆二級ボイラー技士 ◆小規模ボイラー技能講習 ◆アーク溶接特別教育修了証 	<ul style="list-style-type: none"> ◆第一種二種電気工事士 ◆第三種電気主任技術者 ◆基本情報処理技術者 ◆技能検定三級シーケンス制御 ◆ITパスポート ◆DD第三種 他 	<ul style="list-style-type: none"> ◆二級施工管理技士(学科) ◆福祉住環境コーディネーター ◆カラーコーディネーター ◆建築CAD検定 ◆技能検定三級建築大工 他 ◆二級建築施工管理技士 ※卒業後に学科試験に合格し実務経験を経て申請可能なもの ◆二級建築士、木造建築士

■部活動

クラブ加入状況：延べ139名（49%） 運動部83名 工業・文科系56名
工業系部活動では、「ロボコンIN信州」「ものづくりコンテスト」に出場

大町岳陽高校

全日制 普通科

入試年度	充足率	募集定員	入学者数	入学者数の5年間平均						
				松本市	塩尻市	安曇野市	東筑摩郡	大町市	北安曇郡	その他
H29	96%	160	153	1	0	38	0	58	41	1
H30	91%	160	145							
H31	99%	160	158							
R2	103%	120	123							
R3	100%	120	120							

全日制 学究科

入試年度	充足率	募集定員	入学者数	入学者数の5年間平均						
				松本市	塩尻市	安曇野市	東筑摩郡	大町市	北安曇郡	その他
H29	100%	80	80	2	0	20	0	32	26	1
H30	100%	80	80							
H31	100%	80	80							
R2	99%	80	79							
R3	100%	80	80							

■進路状況（令和2年度卒業生 220名）

四年制大学45.0%（国公立8.6%）、短期大学7.3%、専門学校等28.6%、就職その他19.1%

■岳陽塾

P T A・同窓会の協力により、土曜日を活用して生徒の学力向上をはかり願いをかなえるための各種講座（土曜補習）、模擬試験、思文堂（自習室）運営等を行っています。

■岳陽アカデミー

篤志家の寄付をもとに、自主的に学ぼうとする生徒を対象に外部講師による進学対策講座、大学見学会、科学の最先端に触れる研修等を実施しています。

■探究的な学びへの取組

- ・親海湿原野外実習 → 大町山岳博物館との連携（学究科）
- ・サイエンスツアー → JAXA筑波宇宙センター 等での研修
- ・課題研究 → 大町市、信州大学、東京大学、国立遺伝学研究所等との連携
- ・全校登山（大町高校の伝統行事を継承）
- ・アジア・アフリカ難民支援運動（大町北高校の取組を継承）SDGsとの関連付けが課題

■部活動 スケールメリットを活かした多彩な活動 33の団体が活動し加入率は85%超。

白馬高校

全日制 普通科

入試年度	充足率	募集定員	入学者数	入学者数の5年間平均						
				松本市	塩尻市	安曇野市	東筑摩郡	大町市	北安曇郡	その他
H29	100%	40	40	0	0	1	0	9	19	1
H30	73%	40	29							
H31	80%	40	32							
R2	65%	40	26							
R3	58%	40	23							

全日制 国際観光科（全国募集）H28年度開科

入試年度	充足率	募集定員	入学者数	入学者数の5年間平均						
				松本市	塩尻市	安曇野市	東筑摩郡	大町市	北安曇郡	その他
H29	85%	40	34	1	0	2	0	2	10	20
H30	98%	40	39							
H31	100%	40	40							
R2	73%	40	29							
R3	73%	40	25							

全国募集の状況（県外からの入学者）H28:13⇒H29:18⇒H30:15⇒H31:22⇒R2:11⇒R3:10

■進路状況（令和2年度卒業生 57名）

四年制大学 42.1%（国公立5.3%）、短期大学 7.0%、専門学校等 24.6%、就職その他 26.3%

■白馬・小谷両村の莫大な支援

- ・白馬山麓事務組合 白馬高校支援係 常駐4人 学校にデスク
- ・学生寮2棟の管理運営費・舎監・管理人・スタッフ
- ・公営塾管理運営費・専任講師3人、グローバル講演会、地域授業支援、全国募集費 他

■生徒募集活動

- ・国際観光科の個別説明会（銀座NAGANO 3回／年、名古屋、大阪、仙台 他）
- ・全国募集の状況
 - ・全国的に中学生年齢の人口減、新型コロナの影響大（地元志向）
 - ・全国募集をしている公立高校の激増（300校以上）
- ・地元白馬・小谷中生の獲得（魅力発信、生徒によるプレゼン、教育活動を共同実施）
- ・普通科の魅力づくり（国際観光科の魅力を普通科にも広げている）

■グローバルで将来の地域創生の担い手を生み出す先進的な教育課程（6つのキーワード）

①環境教育フィールドワーク

自然環境（植物・生物・水質・ダム等）を現地調査

②観光教育フィールドワーク

白馬・小谷地域での体験活動などを通して観光産業に関する理解を深める。

県内の観光地への視察・塩の道研修

宿泊施設での体験学習

白馬・小谷の観光産業に携わる方による授業

③国際・異文化理解教育

観光分野に特化した英語を学習学んだ英語を実際に使った「フィールドワーク」

・ブリティッシュスクールイン東京(BST)、タイ27高校と連携協定と交流活動

・白馬・小谷地域を紹介パンフレット（英語版）作成

・八方インフォメーションセンターでの観光ガイド、カフェ実習

・海外研修旅行（台湾、ニュージーランド）

④山岳・スポーツ教育「世界的な山岳フィールド」

⑤地域との連携「地域の観光業を支える人材育成」

・高校生ホテル、高校生レストラン（接客サービスを通しておもてなしの心を学ぶ）

・デュアル実習On the Job Training（社員と同レベルの実地研修で深い学び）

⑥SDGs教育

・白馬SDGsラボ、グローバル気候マーチ、断熱実験モデルルーム

2 合同部会について

協議会第3回会議において、隣接する旧第11通学区高等学校教育懇話会と協議会との「合同部会」開催が承認されました。第1回部会では、県教委担当者から総合技術高校の説明がなされ、第2回部会では、県内の総合技術高校3校の校長による説明（1名はビデオ説明）により複数の専門学科が併置された比較的規模が大きな学校であることが説明されました。

合同部会では、隣接する安曇野市の南安曇農業高校、穂高商業高校と本地区内の池田工業高校の3校の統合を想定した「総合技術高校」について集中的に審議することとし、一定の結論を出すものではない、という前提で開催されましたが、最終的には「本地区における今後の少子化の状況や社会の変化に対応した専門教育の維持・充実を図るためには、総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備のあり方を議論していくべきであるという趣旨の意見が大勢を占めた。」さらに、旧第12通学区の「大北地域における高等学校の将来を考える協議会」では、合同部会の本報告を踏まえた議事運営を期待する。」とまとめられました。

なお、合同部会の報告（まとめ）は、巻末に掲載してあります。

3 大北地域の高校教育のあり方について（意見・提案）

(1) 学びのあり方について

学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては「探究的な学び」を一層進めることが大切です。そして、探究的な学びの実践から「学力の3要素」をバランスよく身に付け、社会の変化に対応する力、新たな社会を創造する力を育ていくことが大切です。

社会や経済の状況が目まぐるしく変化し、それに伴って高校を取り巻く環境も大きく変化しました。新型コロナウイルス感染症の影響もあって学校ではWi-fi環境やBYODへの取組が進み、様々なICT機器を活用した学びが活発に行われるようになりました。今後も進歩が速いICTの分野で取り残される生徒が出ないように、なお一層の環境整備をお願いします。

本来、子どもたちの興味関心の拡がりには、分野や学科、科目の壁はありません。今後、今ある職業の多くがAIにとって代われ、気候変動や新たなウイルスへの脅威など難問が私たちの前に立ちはだかることでしょう。このような変化の激しい時代を生きる子どもたちには、多くのさまざまな考え方に触れて、実体験・実経験する中から、多面的に物事を捉えられる力や新たな価値を創造する力を養って欲しいと願います。そして願わくば、将来は地域を担う人材として、地域で活躍し、地域とともに生きて欲しいと思います。

そのためには、地域が一体となった学校づくりや社会に開かれた教育課程の観点からも生徒、教職員、保護者、同窓会、教育機関、企業・団体などが協働した学び合いや地域に根差した学びを実現しなければなりません。

また、多様な背景を持つ子どもたちや、あらゆる支援が必要な生徒の増加への対応も重要な課題の一つです。子どもたちが誰一人として取り残されない高校の学びを実現していただくようお願いします。

(2) 各高校の今後のあり方について

① 池田工業高校

池田工業高校は、地元企業の協力を得て実施する池工版デュアルシステム、池田町が設置したコーディネーターによる企業と高校が連携した人材育成など、先駆的で野心的な数々の取組により大きな成果をあげてきました。しかし、少子化の進展に伴い、近年の入学生は募集定員を大きく割る状況が続いています。池田工業高校は来年度（令和4年度）の学科改編に併せ、募集学級数が3から2に減じられることが明らかになり、「実施方針」に記されている「再編の基準」への該当が現実のものとなっています。

池田工業高校の特徴は、工業の専門高校として、卒業生の64%が県内企業に就職し、さらに卒業生の40%が大北地域や安曇野地域の企業へ就職している点（過去10年間の実績より）であり、これまでに多くの産業人を輩出してきました。特に大北地

域・安曇野地域の地域産業の将来を考えたときに、地域産業をこれまで支えてきた専門高校の大きな役割や存在意義、また今後少子化の中であっても、産業界との連携の必要性は変わりません。ついては、県教育委員会は、高校の統廃合のみの視点からではなく、専門高校の特徴をいかに継続し、将来の地域産業につなげるかも併せて考え、合同部会の報告とともに総合的な視点で高校改革を丁寧に進めてください。

② 大町岳陽高校

平成28年度に大町高校と大町北高校が統合して以来、大北地域の高校教育の中心として両校の良さを引き継いでいます。統合によるスケールメリットを活かした学校づくりにより、これまで多くの成果をあげてきました。統合当初、普通科4クラス、学究科2クラスの6クラス規模でスタートしましたが、令和2年に普通科が3クラスとなり、現在は5クラス募集となっています。

統合して6年目となった今年度、ビジョン委員会において魅力づくりの議論が活発になり、「普通科、学究科のビジョンを明確にし、魅力ある学校づくりを推進することが重要である。」との自己評価もあります。

今後の少子化の影響は甚大と思われませんが、大北地域を背負っていく高校として「卓越性の伸張」と「多様な進路への対応」の両面において成果が発揮できるよう十分な教員配置をお願いするとともに、さらなる特色化を進めることにより、引き続きスケールメリットを活かした学びが実現できるようにしてください。

③ 白馬高校

白馬高校の全校生徒数は、平成27年度は170名、28年度から募集を開始した「国際観光科」には前期・後期含めて13名の県外生が入学し、全校生徒数は184名と増加しました。平成29年度は18名の県外生が入学して全校210名、30年度は15名の210名、31年度は22名の208名、と推移しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けて、令和2年度は11名の181名、3年度は8名の163名と再び減少に転じています。令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受けることが予想されています。

このような厳しい情勢の中にあって、白馬・小谷地域における「学びの保障」という重要な前提を踏まえるとともに、地元自治体のこれまでの非常に大きな支援を無駄にしないためにも、再編の基準をそのまま適用することなく存続できるようにし、最終的には「中山間地存立特定校」として心配なく存続できるように、早急な検討をお願いします。

また、国際観光科の全国募集については、寮を設置している白馬村、小谷村に大きな負担があることは事実です。今後も両村との十分な意見交換のもと、制度の柔軟な見直しを含め意見交換を続けていただくよう要望します。

④ 定時制

池田工業高校定時制は本地区唯一の定時制として、様々な背景によって全日制高校に通うことのできない生徒の学びを保障するという観点から、小さな規模ながらも非常に重要な役割を果たしてきました。今後も、地区内の定時制の学びを維持していただくようお願いいたします。

合同部会 報告 [まとめ]

「安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会（以下、合同部会）」は、“一定の結論を出すものではない”という前提で開催されたが、少子化の加速や定員割れの状況という現実から目をそらしてはならず、合同部会の中でも次世代に対して責任ある議論を積極的に行うべきであるとの意見もあった。合同部会では、次のような議論が行われた。

第1回目の合同部会では、県教育委員会事務局から、安曇野・大北地区（以下、本地区）における少子化の状況説明、これからの産業教育に求められる専門分野の融合・協働の必要性の確認、総合技術高校の説明等がなされた。

次いで、第2回目の合同部会では、県教育委員会事務局から令和3年3月公表の「第1期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理（中高一貫校・総合技術高校 増補版）」では、総合技術高校は「産業構造の変化や技術革新に柔軟に対応することができる有効な選択肢であるため、今後も配置を推進する。」と記載されているとの説明がなされた。また、県内の総合技術高校3校（①須坂創成高等学校、②佐久平総合技術高等学校、③飯田O I D E長姫高等学校）について各学校から成果と課題が示され、これからの時代の産業教育における総合技術高校の優位性ととも、高い専門性を担保しながら地域に根差し、地域と連携した探究学習等を実践していること、高等教育機関への進学者が増えていること、地域の評価や期待が高いこと等の説明がなされた。これらの説明を踏まえ、**本地区における今後の少子化の状況や社会の変化に対応した専門教育の維持・充実を図るためには、総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備のあり方を議論していくべきであるという趣旨の意見が大勢を占めた。**

なお、少子化の状況を鑑みてスピード感を持って一刻も早く進めていくべきである、本地区の専門高校3校はすでに地域連携や高い専門性を追求する学びが展開できているため総合技術高校を新たに設置する必要はない、機が熟していない、地域の枠を越えて安曇野エリアを一体として捉えるべきである、先行事例が抱える課題を踏まえて2キャンパスにしてはならない、私立高校との関係を考慮した議論を展開すべきである、都市部存立普通校に対する改革も不可避である、子どもたちを主とした当事者の気持ちに真摯に向き合い丁寧なフォローアップをしていくべきである、10年後・20年後を見据えた責任ある意思決定が必要である、などの重要な意見が出たことも申し添えておく。

今後の論点としては、①総合技術高校を設置する場合に生じる様々な課題（通学区問題、情報提供など）に対する方策を具体的に検討すべきこと、②子どもや保護者に対する積極的な情報提供を行い、中学生や保護者に選ばれる高校となるための方策を考えること、③本地区の専門高校を統合し総合技術高校を設置した場合には高校がなくなる地域が出てくることが想定されるため、地域住民の理解を得るための方策を検討すべきこと、④旧第11通学区高等学校教育懇話会における住民説明会、研究部会及び合同部会で提起された多面的・多角的な論点に真摯に対応しながら進めていくべきであること等が挙げられた。

旧第11通学区の「旧第11通学区高等学校教育懇話会」、旧第12通学区の「大北地域における高等学校の将来を考える協議会」では、合同部会の本報告を踏まえた議事運営を期待する。

大北地域における高等学校の将来を考える協議会 開催経緯

【協議会】

	内 容
第1回 令和元年9月9日(月) 北アルプス市町村会館 2F 大会議室	協議事項 (1) 議案1 大北地域における高等学校の将来を考える協議会設置要綱の制定について (2) 議案2 大北地域における高等学校の将来を考える協議会委員の選任について (3) 議案3 座長及び副座長の選任について
第2回 令和2年3月24日(火) 北アルプス市町村会館 2F 大会議室	会議事項 (1) 「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」及び旧第11通学区の状況について (2) 今後の進め方について
第3回 令和2年10月12日(月) 大町公民館分室 2F 講堂	会議事項 (1) 地区3校の現状と課題等について(校長説明) (2) 現在までの経過について (3) 今後の進め方について…合同部会の設置
令和3年11月8日(月) 北アルプス市町村会館 2F 講堂	<input type="checkbox"/> 大北5市町村教育長会議 「大北地域における高等学校のあり方」についての意見・提案書(素案)の内容確認及び、パブリックコメントの実施について依頼(12月6日までに報告)
令和3年11月15日(月) ～30日(火) パブリックコメントの実施	<input type="checkbox"/> 大北5市町村による「大北地域における高校教育のあり方」についての意見・提案書(素案)について、パブリックコメントの実施
令和3年11月30日(火) 協議会委員への内容確認	<input type="checkbox"/> 協議会委員へ、「大北地域における高校教育のあり方」についての意見・提案書(素案)の内容確認を依頼(意見は、12月10日までに報告)
第4回 令和3年12月15日(水) 北アルプス市町村会館 2F 大会議室	会議事項 (1) 合同部会報告〔事務局〕 (2) 旧第11通学区高等学校教育懇話会の状況〔事務局〕 (3) 意見・提案書(案)について (4) 意見・提案書の確定及び県教育委員会への提出について

【安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会】

第1回 令和3年3月11日(木) 安曇野市穂高会館 第1・2会議室	開催の経緯及び趣旨の説明 座長、副座長の選任 会議事項 (1) 県教育委員会による資料説明 (2) 懇話会・協議会からの説明 ・第11通学区高等学校教育懇話会 研究部会Ⅲ(安曇野) ・大北地域における高等学校を考える協議会各事務局 (3) 意見交換
第2回 令和3年4月26日(月) サン・アルプス大町	会議事項 (1) 資料説明 ・「第1期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理(中高一貫校・総合技術高校 増補版)」(抜粋) ・再編・整備の進め方について (2) 県内3校の総合技術高校の取組について ・須坂創成高等学校 学校長 西澤国之 先生 ・佐久平総合技術高等学校 学校長 田中信明 先生 ・飯田OIDE長姫高等学校(学校長 松原 均 先生) 資料のみ (3) 質疑応答 (4) 意見交換(論点) 活力ある専門高校の学びについて この地域に、総合技術高校の学びは必要か
第3回 令和3年5月14日(金) サン・アルプス大町	会議事項 (1) 報告(案)について 主な論点 ・地域や地域企業と連携した高等学校における産業教育について ・これからの地域の産業を担う高度な人材育成について

大北地域における高等学校の将来を考える協議会 設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、長野県教育委員会が策定した「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」に基づき、大北地域における高等学校の将来のあり方について、長野県教育委員会に意見及び提案を具申することを目的として設置する協議会（以下、「協議会」という。）について定める。

(委員)

第2条 協議会の委員は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 市町村長
- (2) 市町村教育長
- (3) 市町村議会の代表
- (4) 北アルプス地域振興局長
- (5) 商工会議所及び商工会の代表
- (6) 農業協同組合の代表
- (7) 保護者の代表
- (8) 中学校長会の代表
- (9) 高等学校長会の代表
- (10) その他、地域の実情に応じた者

(任期)

第3条 協議会の委員の任期は、協議会の目的を終えるまでとする。

(会議)

第4条 協議会に委員の互選により座長1名、副座長1名を置く。

- 2 座長は会務を総理する。
- 3 副座長は座長を補佐し、座長に事故あるときにはその職務を代理する。
- 4 会議は公開とする。ただし、座長は協議会に諮って会議の一部又は全部を非公開とすることができる。

(招集)

第5条 協議会は、座長が招集する。

(事務局)

第6条 協議会の事務局は、大町市教育委員会及び長野県教育委員会に置く。

(補足)

第7条 この要綱に定めるもののほか協議会の運営に関し必要な事項は、座長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和元年9月9日から施行する。

大北地域における高等学校の将来を考える協議会 委員名簿

氏名	区分	役職等	備考
牛越 徹	市町村長	大町市長	※座長
甕 聖章	市町村長	池田町長	
平林 明人	市町村長	松川村長	※副座長
下川 正剛	市町村長	白馬村長	
中村 義明	市町村長	小谷村長	
荒井今朝一	市町村教育長	大町市教育長 ※	
竹内 延彦	市町村教育長	池田町教育長 ※	
須沢 和彦	市町村教育長	松川村教育長 ※	
平林 豊	市町村教育長	白馬村教育長 ※	
山田 光美	市町村教育長	小谷村教育長 ※	～R3. 3
関 芳明	市町村教育長	小谷村教育長 ※	R3. 4～
坂中 正男	産業界	大町商工会議所会頭 ※	
矢崎 昭和	産業界	池田町商工会長 ※	
内川 輝雄	産業界	松川村商工会長 ※	
杉山 茂実	産業界	白馬商工会長	
今井 頌治	産業界	小谷村商工会長	
山田 高司	産業界	大北農業協同組合代表理事組合長	～R2. 5
武井 宏文	産業界	大北農業協同組合代表理事組合長	R2. 5～
中牧 盛登	地域の実情に応じた者	北アルプス広域連合議長（大町市議会議長）	～R3. 5
二條 孝夫	地域の実情に応じた者	北アルプス広域連合議長（大町市議会議長）	R3. 5～
平林 寛也	地域の実情に応じた者	北アルプス広域連合副議長（松川村議会議長）	～R3. 5
太田 伸子	地域の実情に応じた者	北アルプス広域連合副議長（白馬村議会議長）	R3. 5～
傘木 誠	地域の実情に応じた者	大北PTA連合会長	～R2. 5
続麻 純生	地域の実情に応じた者	大北PTA連合会長	R2. 5～
西澤 盛人	地域の実情に応じた者	大北PTA連合会副会長	～R2. 5
山本 勇	地域の実情に応じた者	大北PTA連合会副会長	R2. 5～
山崎 晃	地域の実情に応じた者	北安曇郡・大町市小中学校校長会長（大町市立大町南小学校長）※	～R2. 3
吉澤 清	地域の実情に応じた者	北安曇郡・大町市小中学校校長会長（大町市立大町西小学校長）※	R2. 4～R3. 3
木下 政道	地域の実情に応じた者	北安曇郡・大町市小中学校校長会長（大町市立第一中学校長）※	R2. 4～
塩島 学	地域の実情に応じた者	北安曇郡・大町市小中学校校長会副会長（大町市立大町北小学校長）	～R3. 3
松下 設吉	地域の実情に応じた者	北安曇郡・大町市小中学校校長会副会長（白馬村立白馬北小学校）	R3. 4～
小林 武広	地域の実情に応じた者	旧第12通学区校長会長（長野県池田工業高等学校長）	～R2. 3
薄井 康央	地域の実情に応じた者	旧第12通学区校長会長（長野県大町岳陽高等学校長）	R2. 4～R3. 3
関 正浩	地域の実情に応じた者	旧第12通学区校長会長（長野県白馬高等学校長）	R3. 4～
横川 秀明	地域の実情に応じた者	元大町高等学校長 ※	
荒井英治郎	地域の実情に応じた者	国立大学法人信州大学教職員センター 准教授 ※	
滝沢 弘	地域の実情に応じた者	長野県北アルプス地域振興局長	

※ 安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会メンバー

ただし、荒井英治郎氏は、旧第11通学区高等学校教育懇話会から選出

旧12通学区別中学校卒業予定者数の予測（2017年～2030年）

各年3月の卒業予定者数（単位：人）

中学校 卒業生	2017年 H29 (A)	2018年 H30	2019年 R1	2020年 R2	2021年 R3	2022年 R4	2023年 R5	2024年 R6	2025年 R7	2026年 R8	2027年 R9	2028年 R10	2029年 R11	2030年 R12 (B)	2017年と 2030年の 増減 (B)-(A)	2017年に 対する 2030年の 比率 (B)/(A)
1区	320	265	255	265	250	256	230	233	169	219	216	187	198	200	-120	63%
2区	1,290	1,188	1,165	1,059	1,031	1,084	1,087	1,034	1,050	1,017	1,020	973	984	962	-328	75%
3区	2,686	2,754	2,582	2,567	2,378	2,459	2,460	2,414	2,284	2,336	2,179	2,131	2,017	2,040	-646	76%
4区	1,990	1,962	1,986	1,883	1,841	1,875	1,837	1,818	1,703	1,683	1,758	1,651	1,582	1,679	-311	84%
5区	1,938	1,829	1,799	1,826	1,742	1,711	1,708	1,669	1,618	1,662	1,652	1,609	1,566	1,573	-365	81%
6区	2,047	1,966	1,949	1,874	1,799	1,887	1,823	1,800	1,767	1,830	1,723	1,705	1,776	1,667	-380	81%
7区	1,912	1,940	1,773	1,770	1,771	1,788	1,702	1,736	1,630	1,598	1,585	1,563	1,532	1,478	-434	77%
8区	1,856	1,816	1,823	1,728	1,704	1,764	1,731	1,642	1,729	1,579	1,623	1,521	1,535	1,553	-303	84%
9区	1,715	1,606	1,555	1,560	1,480	1,465	1,530	1,434	1,394	1,451	1,403	1,360	1,341	1,256	-459	73%
10区	210	214	203	213	207	190	185	167	195	181	170	156	161	150	-60	71%
11区	4,226	4,139	4,007	3,854	3,911	3,911	3,895	3,875	3,656	3,664	3,611	3,523	3,493	3,545	-681	84%
12区	564	560	533	479	448	440	459	435	423	412	436	382	368	410	-154	73%
県全体	20,754	20,239	19,630	19,078	18,562	18,830	18,647	18,257	17,618	17,632	17,376	16,761	16,553	16,513	-4,241	80%

（注1）2017年～2021年については、それぞれ前年度の学校基本調査による数。

（注2）2022年～2030年は、2021年度学校基本調査による数。

（注3）3区と4区は独自推計による。

（注4）松本秀峰中等教育学校（前期課程：11区）、県立雁代附属中（中1～中3：4区）、同進清陸附属中（中1～中3：7区）、市立長野中（中1～中3：3区）の生徒数を含む。

令和3年度 旧12通学区別入学者流出入表（全日制）

令和3年度入学者 流出入表

		From 中学校の所属通学区												県外	流入
To 高校の旧通学区	旧通学区	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区	12区		
	1	159	56	20	4	1		1				2	3	7	94
	2	17	648	295	17	1		1	1			1		1	334
	3	27	125	1105	325	18	8	2	4	1		12	3	8	533
	4		5	193	880	47	3			1			1	3	253
	5		2	5	135	1067	144	1	1			1		3	292
	6		3	3	4	101	1203	1	2	3		3		7	127
	7		1	1	2	5	1	1224	100	1	1	97		9	218
	8			1				13	1081	12		14		2	42
	9			1					46	1080	1			3	51
	10			1						2	143	13		7	23
	11			1	6	1		59	8	2	17	2171	131	5	230
	12	1						1				94	215	9	105
	流出数	45	192	521	493	174	156	79	162	22	19	237	138	64	2302
	流入数	94	334	533	253	292	127	218	42	51	23	230	105		2302
	流入-流出	49	142	12	-240	118	-29	139	-120	29	4	-7	-33		

【参考】

令和2年度入学者 流出入表

		From 中学校の所属通学区												県外	流入
To 高校の旧通学区	旧通学区	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区	12区		
	1	154	66	21	1	1	1			1			1	6	98
	2	28	676	325	18		2		1				1	1	376
	3	43	138	1182	322	21	10	4		2		20	5	4	569
	4		6	193	959	42	3				1	8		1	254
	5			7	149	1114	123	1	1			1		4	286
	6		1	9	6	130	1275			2	1	5		4	158
	7			1		3	2	1224	98	2		105	1	5	217
	8				1			22	1097	21		4		1	49
	9							1	50	1172		2		2	55
	10			1				2	4	1	162	15	1	18	42
	11			6	1		1	57	10		12	2108	147	8	242
	12		1	1				1	1	1		126	205	13	144
	流出数	71	212	564	498	197	142	88	167	29	13	286	156	67	2490
	流入数	98	376	569	254	286	158	217	49	55	42	242	144		2490
	流入-流出	27	164	5	-244	89	16	129	-118	26	29	-44	-12		

【参考】

平成31年度入学者 流出入表

		From 中学校の所属通学区												県外	流入
To 高校の旧通学区	旧通学区	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区	12区		
	1	167	60	26	5								2	3	96
	2	26	758	345	11	1				2				1	386
	3	27	155	1155	390	5	5	1				14	6	6	609
	4	1	4	232	905	48	2					8		3	298
	5			1	140	1132	125							8	274
	6	1	1	6	10	108	1380	4	1	1		5		6	143
	7				3	1	4	1178	105	1	1	123	1	1	240
	8							15	1188	21	1	17		2	56
	9			2					53	1158		3		2	61
	10							3	5		138	12	1	16	37
	11			3	3		1	45	11		25	2275	170	14	272
	12			2		1	1		1			134	243	23	162
	流出数	55	220	617	562	164	139	68	176	25	27	316	180	85	2634
	流入数	96	386	609	298	274	143	240	56	61	37	272	162		2634
	流入-流出	41	166	-8	-264	110	4	172	-120	36	10	-44	-18		

「都市部存立校」と「中山間地存立校」について

2021年（令和3年）5月1日現在

通学区	旧12通学区	都市部存立校		中山間地存立校
		都市部存立普通校	都市部存立専門校	
1	1			飯山 下高井農林
	2	中野立志館 中野西 須坂東 須坂	須坂創成	
	3	長野吉田 長野 長野西 長野東	長野商業 長野工業	北部
	4	長野南 篠ノ井 屋代 屋代南	更級農業 松代	坂城
2	5	上田 上田染谷丘 上田東	上田千曲	丸子修学館
	6	小諸 岩村田 野沢北 野沢南	小諸商業 佐久平総合技術	蓼科 軽井沢 小海
3	7	諏訪清陵 諏訪二葉 下諏訪向陽 岡谷東 岡谷南	諏訪実業 岡谷工業	富士見 茅野
	8	伊那北 伊那弥生ヶ丘 赤穂	上伊那農業 駒ヶ根工業	辰野 高遠
	9	飯田 飯田風越	飯田 OIDE 長姫 下伊那農業	松川 阿智南 阿南
4	10			蘇南 木曾青峰
	11	塩尻志学館 田川 松本県ヶ丘 松本美須々ヶ丘 松本深志 松本蟻ヶ崎 豊科	松本工業 南安曇農業 穂高商業	梓川 明科
	12			池田工業 大町岳陽 白馬

注) 「都市部存立校」と「中山間地存立校」の考え方は、全日制高等学校を対象としており、多部制・単位制及び定時制高等学校は含まれていない。